



早明浦ダム  
ホームページ

↑スマホはこちらから

早明浦ダムは昭和50年4月に管理を始めて、46年目を迎えます。

本年度の早明浦ダム管理事業は、次の内容を実施します。

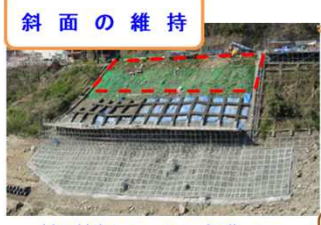
【主な事業の実施内容】

●ダム周辺

- ・ ダムの機能を良好な状態で維持するために、
  - ・ ダムからの放流操作をする設備の取替
  - ・ ゲートに取付けている部品交換や塗装の塗替
- このほか、ダムに取付けられている気象設備などの点検やダムに異常がないか堤体観測などを行い確認します。

●貯水池周辺

- ・ 貯水池やその斜面の状態を維持するために、
  - ・ 貯水池に溜まった土砂を取り除く工事
  - ・ 斜面を崩れないようにする工事
- このほか、水質調査、斜面観測、環境調査や貯水池に溜まった土砂の量を図る測量などの調査を実施します。



斜面の維持

斜面が崩れないように保護します。



ゲートの修繕

次の洪水に備えて、ゲートの部品交換等を行います。

たくさんの方の応援  
ありがとうございました

令和2年1月19日

「土佐町駅伝大会」

令和2年2月2日

「本山町駅伝大会」

二つの駅伝大会へ、水資源機構として3チーム参加しました。

普段の運動不足から完走が危うい選手の参加もありましたが、沿道から温かいご声援をいただき、無事完走することができました。

上位を目指せるチームではありませんが、地域の皆さまとの交流が図れるこのイベントに来年も是非参加したいと思っています。



沿道の声援  
に応える  
小谷口所長

高知県東警察署と  
重要インフラ対策合同訓練

令和2年2月27日、高知県東警察署からの声かけで「重要インフラ対策合同訓練」を実施しました。

一般の見学者を装ったテロリストが早明浦ダムに侵入し、サイバーテロが発生したという想定で、「見学者の避難誘導」「110番通報」「犯人の制圧」「証拠保全」の訓練が行われました。

早明浦ダムへは、令和元年度4,000人を超える見学者の来訪があったため、避難誘導や通報訓練は、管理所職員にとつてとても参考になる訓練でした。



小谷口所長による  
110番通報

◆◆◆ ダム再生事業 近況報告 ◆◆◆

令和2年2月17日から20日の4日間、高知工科大学の学生がインターンシップ(就労体験)のため、ダム管理の業務やダム再生事業に関連する業務を体験しました。

再生事業では、地質や環境の調査、工事に向けた施工計画検討のほか数多くの業務を行っており、今回の就労体験では、職員が定期的に行っているダム周辺の地下水位の観測や工事の設計業務の打合せに同席し、我々機構職員と同じ仕事を体験してもらいました。

また、この大きな早明浦ダムやこれから進むダム再生事業のPRをどうしていくのか、など大学生ならではの新鮮な意見や提案をいただきました。

どの業務にも積極的に取組まれ、担当した筆者も有意義な機会となりました。



地下水位観測に取り組む様子(写真左)



報告に真剣に聞き入る様子(写真手前)

ダムからの警報が聞こえたら...

■早明浦ダムの警報を聞いたことがありますか？

早明浦ダムでは、ゲートから放流を行うときには、川を利用している方々や住民の皆さまの安全を確保するため、警報(音声及びサイレン)及びパトロールを行います。

この警報は、ダムから流れる水の量によってサイレンを鳴らす回数が変わります。

昨年からの、異常洪水の危険があるときには、より緊迫した状況を伝えるために、サイレンに加え緊急効果音を鳴らすことにしました。

■警報が聞こえたら、どうすべきか？

警報が聞こえたら、川から離れ、安全な場所に移動し川に近づかないで下さい。

ダムからの放流が始まると、川の水かさが増え、流れも速くなり川の中はとても危険です。また、緊急効果音が聞こえたときは、速やかに身を守る行動を取って下さい。

大雨のときには自治体からの防災情報(防災無線・エリアメール・ホームページ等)が確認できる状態にして下さい。

放流警報設備



警報・パトロールを行う区間 L=53km

放流警報設備 (30箇所)

早明浦ダム

放流警報区間



サイレン回数	ダムから流れる水の量	川の状態
2回	ゲートから放流を開始	水かさが増えます
4回	毎秒800m3を越える放流	氾濫する可能性
緊急効果音 + 6回	毎秒2,000m3を越える放流	異常洪水 氾濫の可能性大

★★★ ダム知識 Information ★★★